

令和6年度 十王地区まちづくり座談会における質問・要望事項と回答
令和6年7月22日(月) 午後7:00~8:30 (十王地区コミュニティセンター)

町からのテーマ【第6次白鷹町総合計画後期基本計画の策定について】

《質疑応答》

Q. (十王水利組合のお願い) 小四王堰がある。ふじくら沼から水が流れてきて、防火用水池もある。10年前の大水の影響でコンクリートの用水路が崩れてえぐられた。管理や草刈りの為にえぐられた上を歩いて水の注入口まで行っている。脱落してしまうと水が八卦や防火堰に来なくなる。何とか土盛り、修繕して歩道を歩けるようにしてほしい。

A. (農政課長) 水利組合の施設は基本的には受益者の管理となっている。具体的なところは個別に相談いただきたい。

A. (町長) 水利組合の施設は基本的には受益者が負担をすることで成り立っている。実際に現場を見て状況を確認させて頂き、手立てがあるのかないのかを判断をすることになる。一度現場を教えて頂きたい。

Q. 産業づくりが重要視され、満足度が低い状況。十王の農地は高齢化や担い手不足で荒れている田畑も多い。産業づくりに田んぼ等を役立ててほしい。白鷹町で育った子供たちが地元に戻れるようになるのではと思う。

A. (町長) 十王地区に限らず、荒廃農地、放棄地が考えられないスピードで進んでいる。農業法人を作った場所であっても利便性が低いと放棄地になる。製造業のある会社がハウスを持ち、水耕栽培が出来る機器の開発を考えている。現在クローズアップされている水耕栽培は四季の影響が少なく、太陽光発電を活用していく。地球環境を汚さない形で水耕栽培をやっていきたいと研究している。労働力が吸収されないと住む人がいなくなってしまう。大事な部分なので色々な部分に絡めて取り組んでいく努力をしていきたい。

Q. 自分の住んでいる所からみると、田んぼがなくなりほとんど草地か畑になっている。次世代が東京に住んでいたりすると散り散りになってしまう。何かするにも大変になり、遺産分割で関係する人も増えてしまう。(資料裏面) 相関図で農村・農地、土地利用は丁度真ん中あたりにあるが、町としてどのように考えているのか。

また、ふるさと納税の特産品の募集掲載を見て考えてみたが、一人での農業は作るのが精

一杯で営業は難しい。田んぼが一番土地を使う。機械化のため畑よりも田んぼの方が作りやすいので田んぼは田んぼとして使ってもらうのが一番土地利用になると思う。土地利用に関わるので町としてその辺も考えていただきたい。

A. (農政課長) 人口減少の中、農業でも高齢化、担い手不足が起きている。耕作されない土地の拡大も課題。皆さんが集まり将来の事を話し合うことが大事だと言われている。今地域計画に取り組んでおり、現状を図面に落とし込み地域の現状を知っていただき、10年後の将来を皆さんで考えていただく作業をしている状況。農地をどうしていくかをJA、土地改良区、町職員も参加し、皆さんと考えていく。どうやって次世代に引き継いでいくかも考えていくが、どうしても後継者が見つからない場合は検討中として処理することも可能。国で示されている長期的な土地利用のあり方も含めて皆さんと考えていきたい。

A. (町長) 計画を立てているところ。広大な田んぼもそうでない田んぼも効率よく生かしていくためには、作物を含めた条件不利地の中で支える方法を検討していく必要がある。広野で基盤整備をし、浅立や東田尻でも基盤整備や圃場再整備に向けて動いている。白鷹土地改良区は50年なのでそろそろ更新が必要。同じ負担をするならそこまで考えていきたい。

また、農作物を食べきれない場合の食品の加工技術の向上についても取り組みをしている。

土地については、特に山は今まで誰のものか分からない所がほとんどであった。昨年レーザー測量をした。山の図面と合わせていけば誰の土地か大体わかるようになる。はんこを押さなければ境界は成立しないが、法改正により相続は義務化になっている。農地や土地を持っている方には固定資産税を払っていただいているので、それについて相談に乗ったり、方向性を検討していきたい。

Q. 森林林業再生協議会に参加している。レーザー測量で地籍調査を立ち上げてくれるということで5万円の補助金の申請書ももらってきている。区長さんとも話をしながら進めているがどのような方法でやってよいのか分からないので教えていただきたい。

A. (林政課長) 今年筆界図を作ろうとしている。筆界図が出来次第、各地区ブロック分けをし、誰の土地か進めていく。まだ立ち上がっていない部分があるので、相談しながらやらせていただきたいと思うので、もう少しお待ちいただきたい。筆界図をみなさんにお見せしながらお話していきたい。

Q. (前の続き) プロジェクトを立ち上げるための申請書はいつまで出せばいいのか。

A. (林政課長) まだ全然動いていないところがあり、細かいところはまたお話させていただきたい。

Q. 平成 30 年に田んぼを何とかしようとまとめ役の 5 人で話し合いをした。その後、各町内や生産組合関係者にも集まっていたが、十王地区田んぼの会を作り、田んぼをどうしていくかという話し合いをした。町、県の方にも協力を頂き活動もしたが実らず。専門的に農業をしている一番若い方も 70 歳台。担い手がいないことから最終的に話し合いは終わった。小四王堰は平成 26、27 年の大雨で水路がなくなった。最初から水路をどうしていくか考えていく必要がある。その場限りの水路では持たないと思う。

A. (町長) 十王は非常に水が少なく、ため池が蚕桑の次に多い。基盤整備は水との関係が出てくる。一番求められているのは後継者。地域をどうしようと進めていただいた思いを忘れることなくやっていかなければと思う。水路については現場を見せていただき、どのような応援が出来るか判断する。全体的な土地利用については区長をはじめ皆さんと相談させていただき、案を作っていきたい。十王の土地は多くないので慎重に考えていきたい。

Q. 今ある小学校について、いずれ統廃合になると思っているが、踏み切る時期はどのように考えているのかお聞きしたい。1 校にするのか 2 校にするのかお聞きしたい。

A. (教育長) 総合教育計画として町長と教育委員会が話をする場では、複式学級が見えてきたときに、またはなったときを目安に検討すると確認している。転出入により途中で学年の人数が変わることもあるので、慎重に動きを見ていく。今ある人数で教育の質を上げることに力を入れている。人数の多少に良さはそれぞれあり、それぞれに合わせて学習方法の工夫が出来る。紅花等の町や学区の良さを生かした体験学習も大事にしていきたい。

Q. 5、10 年後を見据えたときに町で自給が必要なのは水、食料だと思う。全国各地で違法に伐採をしている所があると聞いた。境界を測量したことで今後自分の土地の境界が分かるが、山林買取の業者に売ってしまうと海外に売られ、自分の水等の確保が出来なくなる恐れがある。必要な資源はある程度町で管理したほうがいいのではと思う。今後の対応の仕方があればお聞きしたい。

また、エネルギーの自給は出来ていないので、10、20 年後にエネルギーが確保されている町であれば若者に定住してもらう PR になると思う。長期的に見据えた対策等をしていただきたい。

A. (林政課長) 森林の売買は報告が義務付けられており、市町村は林野庁に報告し、林野庁は購入者をホームページで公表している。購入者を確認しながら、問題があれば対策を打っていく事になる。各地でバイオマス発電所が作られているため、買いたいという話も考えられるが、町や国としては切ったら植えることが持続可能な森林経営になるとしている。伐採届を出す際に求められる次の造林者の報告や再造林されるのかというところをチェックしながらやらせていただきたい。チップが無いため廃業したバイオマス発電所があった。単にチップ用に山を売るのではなく、使えるものは使い、使えないものは出来るだけお金になるような政策が必要だと考えている。

A. (町長) 鮎貝の自彊会が受け継いできた 2700ha のうち 1700ha は杉を植えている。木材が安くなり一般社団法人は人も雇えず税金も払えない状態になったが、自彊会で排出する酸素を買ってもらえる、カーボンクレジットの情報を頂いた。東京にあるデロイトトーマツと繋がりを持っている。時間がかかると思うが間もなく実現すると思う。三鷹市は森林環境譲与税を多くもらっているので、余っているお金で白鷹町は苗木を買い、育てていく。酸素を買ってもらえれば経済的にも潤い、苗木を育てていく事も出来るのでプラスになる。地球環境にも優しいプラスになるものを作り上げていきたい。